2026/11/9

早稲田大学文学研究科

日本語日本文学コース

(Cultural Sciences Japanese Studies)

秋季コース別相談会資料



【日本語日本文学コースがめざすもの】

文学の基本は言葉です。日本語日本文学コースでは、日本語とその歴史を探究するとともに、個々の文学作品の特色とその歴史的意義とを幅広く考察します。言葉とは何か、文学とは何かを考究することは、日本文化の本質を理解しようとすることにほかなりません。それはまた、日本という座標から世界を認識し、さらに世界の諸文化とのゆたかな共生をめざす新たな文化を創造する出発点ともなることでしょう。

本コースが目的とするのは、まさにこのような形での、日本語日本文学の研究を通した明日の文化創造への貢献です。日本の国内外において、日本語日本文学への高度の認識と、その社会への還元力・応用力を持った若い世代を育てることは、世界的な文化情報センターでもある早稲田大学の重要な務めであり、他大学にはない長い教育の伝統と豊富な実績を持った、日本語日本文学コースが果たすべき役割であると考えます。

そうした理念と使命感に立ち、日本語および日本文学全般について、豊かな見識と、専門的な知識を獲得するための技術とを身につけ、それぞれの研究分野・対象のエキスパートを養成することが、本コースの研究教育上の目的です。とりわけ今日では、外国からの留学生を含めて、国際社会など多様な場で活躍できる、高度な学術研究が可能な若手研究者を養成することが、大きな課題になっています。学際的な分野への対応能力（専門応用能力）を培い、修士課程・博士後期課程のそれぞれにおいて、優れた修士・課程博士を育成し、日本文化ひいては 21 世紀の世界の学術に資するよう取り組んでいます。

日本文学の古典領域においては、上代・中古・中世・近世各時代の研究に対応し、近代・現代領域では明治・大正・昭和・現代文学の研究に対応しています。また、日本語学においては古語から現代語にいたるまでの音韻・文字・語彙・文法・方言など、多岐にわたる日本語学分野研究に対応する体制をつくっています。研究方法においても、実証的な資料調査、本文研究から、最新のメディア・表象理論、文化研究、ポストコロニアリズム等にいたるさまざまな方法に対応できる教員がそろっています。

主として日本文学または日本語学の研究者、国際社会を含めて広く日本文学または日本語学の教育・普及に携わることのできる人材、日本文学または日本語学の高度の専門知識を必要とする編集者、ジャーナリスト、表現者を養成します。アジアを中心とする留学生も多く、それぞれの分野のゼミは、新たな見方・思考が交叉する活気溢れる場となっています。

みなさんにも、こうした日本語日本文学コースの一員として、日本文学・日本語学研究の高い志をもち、日本・世界の文化に貢献する役割を、ぜひ担っていただきたいと願っています。

【研究指導担当教員紹介】（2025 年度）

氏名	職名	現在の専門分野
〈日本語学領域〉		
加藤　大鶴	教授	音韻史、方言音声、現代語音声
森山　卓郎	教授	文法、文体、表現
澤崎　文	准教授	文字、表記史、現代表記
〈古典文学領域〉		
高松　寿夫	教授	日本古代文学
陣野　英則	教授	日本古典文学、平安時代文学、物語文学
新規着任	教授	日本古典文学、和歌、文献学
和田　琢磨	教授	日本中世文学、軍記物語、太平記、絵巻等
池澤　一郎	教授	日本近世文学
河野　貴美子	教授	和漢比較文学
〈近現代文学領域〉		
十重田　裕一	教授	大正・昭和期を中心とする日本近現代文学
鈴木　貴宇	教授	日本近現代文学、都市論、文化論
鳥羽　耕史	教授	日本近現代文学、戦後文化運動
坪井　秀人	教授	日本近現代文学、文化史研究

【大学院日本語日本文学コース配当科目】（2026 年度）

＊早稲田大学 Web シラバス（https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php）でご確認ください。検索画面の「学部」の選択項目のなかから「文研」を選び、次いで、「科目管理主体」の選択項目のなかから「日本語日本文学コース」を選び、検索を実行すると、日本語日本文学コースが管理主体となっている全科目の情報が表示されます。上代から近現代文学、日本語学の各分野をカバーして、専任教員および各分野の専門家が担当する非常勤講師による研究指導・演習・講義が用意されています。

【在籍学生数】2026 年度、（　）内は 2025 年度

（領域）	（修士課程）	（博士後期課程）	
日本語領域	７（７）人	６（７）人	
古典文学領域	１７（１５）人	１４（９）人	
近現代文学領域	２５（２３）人	１６（１９）人	
合計	４９（４５）人	３６（３５）人	８５（８０）人

＊2026 年度の留学生の在籍学生は、修士課程５人、博士後期課程１５人、合計２０人

【取得資格】

教育職員免許状（専修免許状）
種類：　中学校教諭「国語」専修免許状
　　高等学校教諭「国語」専修免許状
※中学校教諭１種免許状、高等学校教諭１種免許状を取得していることなど、取得条件を満たす必要があります。

【留学制度】（博士後期課程）

・コロンビア大学との DDP（Double Degree Program）
・ＵＣＬＡ（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）

【修士論文・博士学位申請論文題目】

〈修士論文〉

２０２５（令和７）年度

〇高松寿夫

万葉集における季節歌の特殊表記とその効果

〇陣野英則

平安文学における漢籍受容の研究

平安文学における『古今和歌六帖』収載歌引用

〇和田　琢磨

『義経記』の研究――中世判官物・『平家物語』との比較を通して――

〇池澤　一郎

溝口健二『近松物語』論――戦後日本映画における古典受容の様相――

『北越詩話』研究

横井也有と堀田六林の両吟和漢歌仙について

Talking Trash: Midnight Storytelling and the Politics of Obscurity in Nishimura Tenshū's Kuzuya no kago（時代の移り変わりを物語るモノ――「質屋庫」「塵塚」「屑屋の籠」の会話を立ち聞く――）

〇坪井　秀人

加害の体験を語り直す――兵士の当事者性を占領期文学から分析する

内田百閒作品における幻想と記憶――ジャンルと境界の揺らぎ――

〇十重田裕一

夷齋石川淳の研究――一九五〇年代の作品分析――

谷崎潤一郎の〈古典回帰〉に関する研究――表現空間としての書物を視座に――

〇鳥羽　耕史

三島由紀夫論――初期の宗教受容と同時代――

安部公房文学の成立――方法としての「改作」――

安部公房後期作品の研究――表現の変容と思想の位相――

〇加藤　大鶴

群馬・埼玉県境界地域における形容詞＋付属語形式のアクセント変化について

〇澤崎　　文

『万葉集』における「之」「乃」「能」字の使用実態とその背景――私家集等との関わりから――

〇森山　卓郎

テ形接続の意味と機能――「前触れ」用法を中心に――

形式名詞文末における反事実性について

２０２４（令和６）年度

〇高松寿夫

『万葉集』の「感覚」と「感情」

大伴坂上郎女研究

〇陣野英則

『源氏物語』の庭と表現

『住吉物語』の研究――姫君と少将の関係を中心に――

『夜の寝覚』の新解釈――「おぼろけならずしみにける心」の再検討を起点として――

〇和田　琢磨

覚一本『平家物語』における愛と死の表象

『平治物語絵巻』の研究

説話における身体の欠損をめぐる研究

〇池澤　一郎

石川雅望『通俗排悶錄』研究

〇鈴木　貴宇

帰朝後の永井荷風についての研究

〇坪井　秀人

「故郷」へ至る長き道のり――安岡章太郎中後期作品論――

宮沢賢治の農村活動と近代仏教の社会思想――浄土真宗と日蓮宗のはざまで――

夏目漱石『三四郎』『それから』論――作中人物間に形成される主従関係に着目して――

〇十重田裕一

楽しき玩具〝ドグラ・マグラ〟――夢野久作『ドグラ・マグラ』のコンテンツ受容としての受容史分析

メディア越境者としての三島由紀夫――一九六〇年代を中心に――

芥川龍之介の童話研究――雑誌『赤い鳥』掲載作品における「神秘」の表象と合理性――

〇鳥羽　耕史

〈漱石神話〉とケアの倫理

虚無への抵抗――一九五〇年代前半の堀田善衞文学と「主体」再建との関係をめぐって

木下順二の民話の思想――草の根的文化運動における国民文化形成のなかで――

〇澤崎　　文

鎌倉時代の古文書における宣命書きの研究

〇森山　卓郎

現代日本語の同格表現について

〈博士学位申請論文〉

２０２５（令和７）年度

谷崎潤一郎の〈古典回帰〉研究――戦間期の視聴覚メディアを視座として――

日本近代文学における〈フィリピン〉の表象の研究――貫戦史的な視座からのアプローチ

出発期の川端康成に関する研究――「家」・「孤児」・言語の交錯――

志賀直哉小説研究――〈殺意〉と語りの構造から読む初期作品群

２０２４（令和６）年度

現代文学と〈食〉――村上春樹の諸作品を中心に――

日本語における現実と非現実に関する文法現象の研究

平安中期私家集における歌人像の研究

『拾遺抄』『拾遺和歌集』の研究

上代和歌と歌論の研究

平安時代かな文学における鳥の多角的研究

語られる聖地像の研究――北陸地方の寺社縁起を中心に――

『懐風藻』の研究

【修了後の進路】

修士課程

博士後期課程進学、中学・高校教員、教育関係、ジャーナリズム、一般企業など

博士後期課程

大学・短期大学教員、中学・高校教員など

【入学試験】

＊日本語日本文学コースが実施している入学試験

＊出願資格などについては、事務所にご確認ください。

〈修士課程〉

・一般入学試験

・推薦入学試験（学部生推薦入学制度）
・論文特別選抜試験
　出願資格
　　早稲田大学文化構想学部・文学部の「卒業研究・ゼミ論文・卒業論文」、もしくは早稲田大学（学部）に提出したこれに類する論文に限る。
・一般科目等履修生入学試験

〈博士後期課程〉
・一般入学試験

【早稲田大学国文学会】

・早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース、教育学研究科国語教育専攻／教科教育学専攻など、所属を横断した早稲田大学国語国文学研究者、在学生、出身者などによる研究学会。
・大会の開催、機関誌『国文学研究』の発行など、活発な活動を展開し、学術成果の報告と会員の交流の場となっています。

【問い合わせ・相談窓口】

ホームページ「日語日文」
http://www.waseda.jp/bun-nihon-go-bun/

日本語日本文学コース室
３９号館５階２５１９研究室
開室時間（2026 年度秋季）：
月火水金　12:00～17:00
木：12:00～16:00
（最新情報は上記ＨＰをご覧ください）
講師もしくはＴＡが在室
メール：wnichibun@gmail.com